

令和3年度 地方創生応援税制活用事業評価書

本市では、水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）に位置付けた事業について、幅広く地方創生応援税制を活用するため、新たに令和2年度～令和6年度を事業期間とする地域再生計画「水戸市まち・ひと・しごと創生推進計画」について国の認定を受け、積極的に財源確保に努めながら、集中的に推進している。

1 評価について

水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）の評価資料のとおり

2 活用事業の概要について

令和3年度については、3事業に対して、企業4社から合計2,450千円の寄附があった。それぞれの事業における実績、今後の取組方針等については以下のとおりである。

事業名	令和3年度の内容・実績	課題と令和4年度取組方針
伝承の味「水戸のわら納豆」を未来へつなぐプロジェクト 令和3年度事業費 予算額：2,050千円 決算額：1,965千円 担当課：農政課	（実施内容・実績など） わら納豆用わら苞生産体制の強化として、水戸市わら納豆推進協議会に対する助成を通じ、わら苞用稲わらの生産に取り組む農業者の圃場にパイプハウスを2棟建設し、当初予定していたハード整備事業が完了した。 また、水戸黄門漫遊マラソンへの協賛や水戸京成百貨店におけるお歳暮販売会場でのパネル展示等を通じた「水戸のわら納豆」のPR事業を実施した。 （寄附企業・寄附額） ㈱ダイナム 800千円 常総開発工業㈱ 400千円	（課題） 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前は、協議会全体で年間約90万食を販売していたが、感染症の影響により市内納豆事業者の売上は5割程度に落ち込み、障害者施設のわら苞出荷量も4割弱まで減少しているため、わら納豆の消費拡大が課題となっている。 （取組方針） 感染症の状況に応じた観光客へのPRにも取り組みながら、消費の落ち込んでいたわら納豆の販売促進を図る。また、ハード整備事業が令和3年度に完了したことを踏まえ、今後の推進協議会のあり方や事業内容について検討する。
安心して医療サービスを受けることができる環境づくり（水戸市医師修学資金貸与事業） 令和3年度事業費 予算額：15,500千円 決算額：13,200千円	（実施内容・実績など） 特に医師不足が課題となっている産婦人科、小児科、救急科の医師を確保するため、将来、市内の医療機関に従事する意思のある医学生へ修学資金を貸与するとともに、次年度の貸与者の募集・選考を実施した。	（課題） 本事業の貸与者、貸与申請者の希望する診療科は、小児科及び救急科に偏っており、産婦人科を希望する貸与者が不足している。 （取組方針） 特に医師不足が課題となっている各診

<p>担当課：保健総務課</p>	<p>【事業利用者】 大学2学年：2名 大学3学年：2名 初期研修1年目：1名</p> <p>(寄附企業・寄附額) (株)ウォーターエージェンシー 1,000千円</p>	<p>療科の魅力を発信するとともに、貸与者に対して、卒業後の進路や初期研修後のキャリア形成等に関する支援体制を構築することで、事業の付加価値を高めていく。</p>
<p>安心して医療サービスを受けることができる環境づくり（休日夜間緊急診療所の運営）</p>	<p>(実施内容・実績など) 水戸市医師会等の関係機関と連携することで、診療所業務に従事する医師、歯科医師、薬剤師を確保し、初期救急医療を担う休日夜間緊急診療所の運営に努めた。また、茨城県から診療・検査医療機関の指定を受け、新型コロナウイルス感染症疑い患者の対応に努めた。</p>	<p>(課題) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を要因とした受診控え等の影響により診療収入が大幅に減少しており、市の財政負担額が増大している。</p>
<p>令和3年度事業費 予算額：214,541千円 決算額：196,400千円</p>	<p>【休日緊急診療】 日数 74日 診療時間 9：00～12：00, 13：00～15：30 利用者数 3,433人</p> <p>【夜間緊急診療】 日数 365日 診療時間 19：30～22：30 利用者数 3,551人</p>	<p>また、従事者及び患者がより安心して施設を利用できるよう、引き続き感染防止に向けた対策を図る必要がある。</p>
<p>担当課：保健総務課</p>	<p>(寄附企業・寄附額) (株)富士住建 250千円</p>	<p>(取組方針) 市民が安心して暮らすために欠かすことができない救急医療体制を確保するため、初期救急医療を担う本事業について、感染症対策を継続しながら、安定的な医療提供に取り組む。</p>